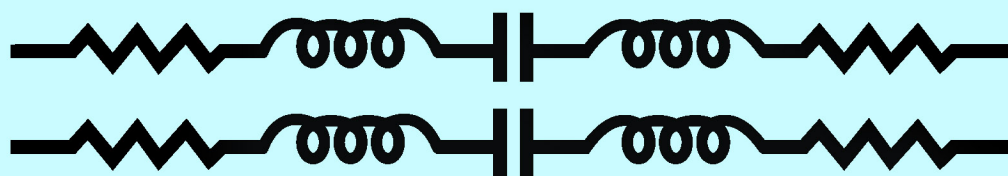


岩手大学電気電子情報科会誌

きたかみ

第 65 号

2019 年 3 月 発行



目 次

会長挨拶	会長 久保田賢二	1
阿部源祐相談役追悼		2
佐々木喜八郎相談役追悼		9
関享士郎先生追悼		12
退職された先生からの寄稿	太田 康治	15
	那須川徳博	17
電気電子通信コースの近況	電気電子通信コース長 小林宏一郎	19
知能・メディア情報コースの近況	知能・メディア情報コース長 永田 仁史	20
第15回（平成29年度）草刈賞受賞者		21
《支部だより》平成30年度東京支部報告	狩野 利之	22
平成30年度仙台支部報告	数藤 崇	23
平成30年度盛岡支部報告	宮手 敏雄	24
平成30年度岩手大学電気電子情報科会総会		25
平成30年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録		26
平成29年度決算書・平成30年度予算書		27
平成30年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿		28
平成30年度電気電子通信コース、知能・メディア情報コース構成員名簿		29
寄稿	山崎 時男	30
総会添付資料		31
平成30年年表		32
岩手大学電気電子情報科会会則		34
編集後記		35
平成31年度総会のご案内		裏紙

ご 挨拶

会長 久保田賢二（昭和 42 年電気卒）



会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。ここに会誌「きたかみ 65 号」をお届けできますことを嬉しく思います。

平成 30 年度の総会は昨年 6 月 23 日盛岡市ホテルルイズで開催され、その場で篠福寛前会長から会長職を引き継ぐこととなりました。昭和 17（1942）年 1 月 1 日設立、会員数 5 千名という本会会長の器でないことを重々承知しておりますので辞退申し上げていたのですが、結果としてお引き受けすることになりました。総会議事後の講演会では、平成 28 年 6 月 18 日開催の創立 75 周年記念式典に於いて草刈功劳特別賞（振興）を受賞された元会長太田原功相談役による「岩手大学電気電子情報科会の歩みをふりかえる」と題するご講演があり、

本科会の生い立ちから現在に至るまでのお話を興味深く拝聴させて頂いて、重責に身の縮む思いですが、会員の皆様のご協力をいただいて役目を全うしなければと考えておりますので、ご支援下さいますようお願い申し上げます。

母校ではこの 3 月 22 日に卒業式・修了式が行われるとのこと、新進気鋭の新たな正会員百数十名が誕生します。まことに喜ばしいことです。社会に出る方、更に勉学を続ける方、健康に留意されて活躍されることを祈念致します。平成 31 年度は 28 年度に改組し理工学部となって 4 年目ということで、準会員であるシステム創成工学科電気電子通信コースおよび知能・メディア情報コースの第 1 回入学生はこの春には 4 年次となり、昨年度設置されて今年 3 月に修了生が出る大学院博士前期課程（修士課程）に続いて大学院博士後期課程も認可され、設置されると聞いており、母校の発展を喜ばしく思います。

また、平成 30 年春の叙勲では久保田勉氏（昭和 45 年電気卒）が瑞宝小綬章を、そして秋の叙勲では三浦守氏（昭和 37 年電気卒・岩手大学名誉教授）が瑞宝中授章を受章されました。まことにおめでとうございます。

さて、本 65 号では 8 月の理事会を経て当初、仙台支部から編集委員に加わっていただいて平成 29 年 6 月 17 日に逝去された阿部源祐相談役（専門 1 回卒）の追悼と平成 30 年 8 月 2 日に逝去された佐々木喜八郎相談役（大学 1 回卒）の追悼を予定しておりましたが、その後、9 月 23 日に岩手大学名誉教授関享士郎先生（大学 7 回卒）が逝去されたことを受けて急遽、お三方の追悼の記事を掲載することにしました。

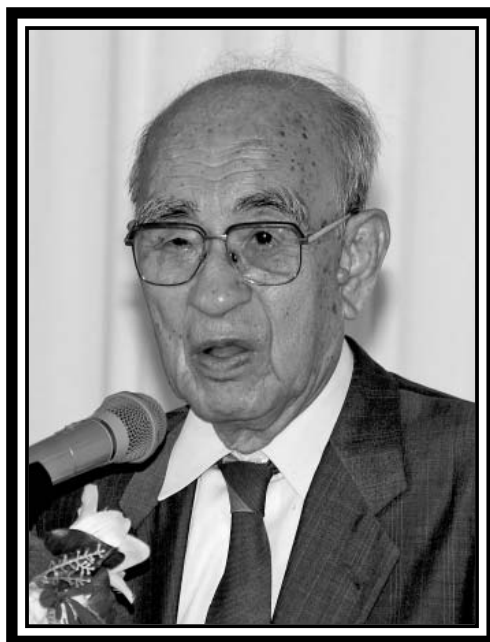
阿部源祐氏は盛岡高等工業学校第 1 回卒業（昭和 16 年 12 月）で、当時電気科長であった草刈遜先生を会長に推戴して、昭和 17 年 1 月 1 日をもって本科会を設立した本科会設立者のお一人であり、昭和 26 年に草刈先生に代わって卒業生として最初の会長（第 2 代）を務められ、以来本科会発展のために相談役として生涯ご尽力されて参りました。佐々木喜八郎氏は岩手大学第 1 回の卒業（昭和 28 年 3 月）で、長年理事、副会長など科会の要職を歴任されて平成 16 年に会長（第 19 代）に就任、4 年間務められ、その後相談役として科会の発展のために生涯ご尽力されました。関享士郎先生は大学第 7 回卒業（昭和 34 年）で、企業に就職されましたが昭和 39 年に母校電気工学科に教官としてお勤めになり、平成 14 年の定年退職まで後輩の懇切丁寧なご指導並びに育成を頂き、また本科会の理事、副会長等を歴任され科会のためにご尽力下さいました。衷心よりお三方のご冥福をお祈り申し上げます。

ところで、本科会の運営は入学時に頂く入会費と卒業後 10 年毎に納めて頂く 1 万円の会費（10 年分の会費）によって行われております。会費未納の方には本誌とともに振込用紙を同封しますので納入方お願い致します。

終わりに会員の皆様のご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

阿部源祐 相談役を偲んで

阿部源祐 相談役



ご 略 歴

- | | |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 1918年(大正7年)12月5日 | 岩手県下閉伊郡山田町で誕生 |
| 1938年(昭和13年)3月 | 岩手県立盛岡中学校卒業 |
| 1939年(昭和14年)7月 | 盛岡高等工業学校電気科入学(第1回生) |
| 1941年(昭和16年)12月 | 盛岡高等工業学校電気科卒業(第1回生) |
| | 日本国有鉄道に就職 日本国有鉄道仙台電気工事局次長で退職
日本電設工業KK東北支店工務部長 大同信号KK東北出張所長
などを歴任 |
| 2017年(平成29年)6月17日 | 逝去(98歳6カ月) |

科会における主な役職および業績

- 1951年(昭和26年)7月 岩手大学電気科会第2代会長に就任(1955年(昭和30年)6月まで)
(註)1942年(昭和17年)1月1日「盛岡高工電気科会」設立(初代会長は草刈遜電気科科長) 1949年(昭和24年)岩手大学工学部発足により1951年(昭和26年)7月科会の名称を「岩手大学電気科会」と改称
1999年(平成11年)6月科会の名称を「岩手大学電気電子情報科会」と改称
- 1966年(昭和41年)4月 岩手大学電気科会終身相談役に就任
- 1992年(平成4年)6月 科会創立50周年記念事業実行委員長として記念式典・記念祝賀会開催
10月 記念誌“炎”発行
- 2003年(平成15年)6月 草刈先生ご生誕100年記念事業実行委員長として仙台市輪王寺において追悼供養 偲ぶ会(ホテルメトロポリタン仙台)開催 工学部玄関ホールに胸像建立 草刈賞制定
- 2011年(平成23年)10月 科会創立70周年記念式典において「草刈功労特別賞(創設・振興)」受賞

科会会誌「きたかみ」および記念誌寄稿文

1. 会誌6号(1946年・昭和21年12月発行)：会則改正について
2. 会誌10号(昭和32年3月発行)：電気科会に思う
3. 会誌11号(昭和33年3月発行)：電気科会のあゆみ
4. 会誌27号(昭和54年3月発行)：故鎌田先生を偲んで
5. 会誌28号(昭和55年3月発行)：電気科会創立の思い出と将来に向っての提言
6. 会誌31号(昭和58年3月発行)：趣味の話＝郵趣あれこれ
7. 岩手大学電気科会創立50周年記念誌“炎”(1992年・平成4年10月1日発刊)：発刊に寄せて
8. 同上記念誌“炎”：電気科会の「あゆみ」さまざま
9. 会誌50号・草刈先生ご生誕100年記念特集号(2004年3月発行)：草刈先生を偲びつつ
10. 会誌58号・創立70周年記念特集号(2012年3月発行)：草刈功労特別賞を受賞して
11. 会誌60号(2014年3月発行)：巻頭言・電気科会スタートダッシュを支えた友の思い出

阿部源祐さんへ捧げる追悼文

太田原 功（昭和 30 年電気卒）

（2017.11.11 仙台市輪王寺墓前における「阿部源祐さん追悼供養（科会主催）」に捧げた追悼文、寒い日であったので一部のみを奉読した）

阿部源祐さん、お世話になりました太田原です。

本日ここに、阿部先輩の在りし日を偲んで、科会の有志 10 数名が墓前に馳せ参りました。

来月、12 月 5 日で阿部さんが数え才 100 才、満年齢 99 才を迎えることを伺いまして、科会としてお祝い申し上げたいとの意向で、本部役員と仙台支部役員が鋭意、協議を進めておりましたところ、6 月 17 日にご逝去されて、既にご葬儀も終わったとの知らせを後日受けました。私共会員一同唯々絶句するばかりでございました。

ご高齢になられてからも尚、お元気で、総会や理事会に積極的に参加され、あるいは電話で、大きなお声で私共を励まして下さった記憶が強烈に残っております。

阿部さんが同期の方々と相諮って、当時の電気科科长草刈遜先生を初代会長として「盛岡高工電気科会」を発足させたのが 1942 年（昭和 17 年）1 月 1 日でした。科会会誌「きたかみ」を創刊、会誌を通じて同窓生相励まし合って第 2 次世界大戦の戦中戦後の困難を切り抜けたと伺っております。

戦後の 1949 年（昭和 24 年）盛岡工業専門学校は岩手大学工学部として生まれ変わったことにより、1951 年（昭和 26 年）7 月、「盛岡高工電気科会」の名称を「岩手大学電気科会」と改称、阿部さんは第 2 代目会長に就任されました。さらに、1999 年（平成 11 年）6 月、名称を「岩手大学電気電子情報科会」と改称して現在に至っております。

1992 年（平成 4 年）6 月、阿部さんを実行委員長として「科会創立 50 周年記念行事」

を行い、創立 50 周年記念誌「炎」と会員名簿を発刊、ホテルメトロポリタン盛岡で 260 名参加の大祝賀会を成功させました。

2002 年（平成 14 年）11 月、この年は科会創立 60 周年にあたりますが、阿部さんを実行委員長として「草刈先生ご生誕 100 周年記念実行委員会」を設置、翌年 2003 年 6 月、「追悼供養と思い出を語る会」を仙台で賑々しく開催、草刈賞創設。佐藤利三郎先生（専 1 卒）ご寄贈の草刈先生の胸像を記念事業実行委員会が用意した台座に安置して工学部玄関ホールに建立されました（2003 年 6 月 27 日）。

2011 年 10 月 29 日「科会創立 70 周年記念」を行うにあたって科会は「草刈功労賞」を新設して阿部さん他 19 名の方々を表彰、阿部さんは「草刈功労特別賞（創設・振興）」を受賞されました。

平成 28 年 6 月には「創立 75 周年記念祝賀会」が盛岡で行なわれました。このように科会は会員各位の全面的なご協力、とりわけ岩手大学電気系教員として在職しておられる卒業生会員の献身的なご尽力のお蔭で、76 年目を迎え、会誌も 63 号を重ねました。

会誌 58 号に寄稿された「草刈功労特別賞を受賞して」の中で「級友富士岳さんを偲ぶ言葉とともに、科会の活性化は一祐会の基盤を強くする」と述べておられます。

会員相互の親睦を基本として、科会の活性化を模索しながら歩み続けております科会は、今後共着実にその歩みを続けて参りますことをお誓いして阿部さんへのお別れの言葉と致します。どうぞ安らかにお眠り下さい。

阿部先輩との思い出

太田原 功（昭和30年電気卒）

仙台に宿泊していた或る日の朝、突然フロントから来客との電話があり、阿部さんのお声に替わり「仙台七夕祭りに案内するので準備せよ」とのこと、大慌てで身支度を整え、朝食をとり（その間阿部さんはロビーで待っていて下さったのです）、恐縮しながらご一緒させて頂きました。猛烈に暑い日でしたが90余才の阿部さんは汗一つかかず、かなりの速足で歩くのにはビックリ。私は汗まみれになりながら付いて歩くのが精いっぱい「一休みしましょう」を繰り返すばかりでした。

前日の2010年8月7日「卒修了生と学長との懇談会（第3回）」が「ホテルサンルート仙台」で開催され、私は開催側の一人として参加

していたのでした。会の終了後、阿部さん行きつけと称する原ノ町の「小ザッパリとした飲み屋」に誘われて、私のその日の役割を慰労して頂きながら、科会をはじめとして同窓会への熱い思いをお伺いした翌日のことでした。

仙台から帰った直後、私には、「胆のう摘出手術」受ける付録がありました。仙台七夕観賞時の異常な疲れは、胆のう炎発症の前触れだったのかも知れません。後日阿部さんから「俺も同じ頃に大腸を半分切ったよ」との話があり、驚いた次第でした。

（奇しくもこれが先輩との単独交流の最終場面となりました）



輪王寺墓前における追悼供養

ありがとうございました

仙台支部 齊 藤 健（昭和 38 年電気卒）

私は平成 2 年春に NTT を退職し仙台の会社へ入社してから科会仙台支部の会合へ参加するようになりました。阿部源祐さんと初めてお会いしたのは平成 3 年の支部総会の席と記憶しています。阿部さんは当時既に 70 歳を超えられていたのですが大変若々しく感じたものでした。私は第一回生が卒業した昭和 16 年の生まれです。大げさにいえば親子ほどの年齢差があったのですが大変気さくに色々話されたのが懐かしく思い出されます。

仙台での新しい仕事・生活にも慣れ科会活動への関わりも以前より強くなり、阿部さんとは役員会などで御一緒することが多くなりました。そして平成 15 年草刈先生ご生誕 100 年記念事業を阿部実行委員長の下で役員の一員として携わりましたが、阿部さんの周到で緻密な準備と根回しで、私は勞せずして担当業務を無事終わらせることが出来ました。豊かな経験を持たれているとは言え年齢を感じさせない精力的な動きは若いものをもっともっと積極的に動き回れというメッセージを出されているようで大いに刺激を受けました。

本部の会合へご一緒することもありましたが、たまには歩こうということで盛岡駅から上田までいろいろな話をされながら楽しそうに歩を進められるのにも驚いたものでした。パソコン、インターネットやブロードバンドネットワークにも早くから興味を持たれていましてしばしば

相談の電話があり、そのたびに知的好奇心の衰えていないことにも感心させられました。

晩年特別養護老人ホームで過ごしていましたが、ある日携帯電話に電話があり、自室に光ファイバーの高速回線を引く相談を受け、相変わらずの御様子に大変うれしく思ったことがありました。その後、その特養に阿部さんを訪ねましたが自室でパソコンを使ってテレビ放送を楽しむ光景を目の当たりにしたり、壁にかかった JR の OB 会から贈られました白寿を祝う賞状を見るにつけ、改めて心身ともに非常にお元気に過ごされている姿に感動を覚え、いつの日には訪れる自分の老いの過ごし方を考えさせられるものでした。

科会としても白寿のお祝いが出来ないかと本部と相談し、科会行事として実施する運びとなっていました。それが実現しなかったことが本当に残念なことでした。

亡くなられた日が平成 29 年 6 月 17 日ですがこの日は奇しくも科会仙台支部総会の日でした。私達の同窓会活動の在り方に対し、より積極的に活動すべきだという最後のメッセージをいただいた気がします。

阿部さんの行動を通して示されました数々のお教えは私には本当に得難いものであり、その数々のお教えに感謝するのみです。

ありがとうございました。

阿部源祐先輩のこと

岡本康之（昭和38年電気卒）

月日の経過が早いのは老年のせいなのだろうか？

阿部源祐先輩の突然の訃報を聞いてから、早くも1年半過ぎようとしている。

阿部先輩がお亡くなりになった訃報のほぼ1年前になるが、科会の先輩の山崎克己さん（S19卒、4回生）が久しぶりに仙台に居を構え、引越してこられ、阿部先輩に是非お会いしたいとのご希望で、私と同期の齊藤健さん（S38卒、11回卒）と三人で、仙台市青葉区双葉が丘にある老人ホーム寶樹荘にお訪ねした。もう、2年半も前のこととなる。

この時は阿部先輩もまだまだお元気で、科会仙台支部でも阿部さんの100歳を祝う会を開催しては、との話も出ていた時期だった。

寶樹荘では阿部先輩のお部屋でお話をさせて頂き、久しぶりにお会いしたと言う山崎先輩との昔話を中心の話が弾んだが、先輩のお部屋はいかにも技術者らしいさっぱりとした印象で、普通の老人の部屋とは違った感じを受けたことを覚えている。科会の皆さんもご存知の通り、

盛岡高工の第1回の卒業生として科会の創設に大変なご尽力をされた上に、会の維持・発展にも尽くされてきた。

私ごとになるが、私が科会のお手伝いをする様になったのは昭和60年代であるが、初めてお会いした時に「僕は君の小さい時代を知っているよ」と言われびっくりし、それ以来科会のお手伝いから手を引くことが出来なくなった訳である。（戦後、私の育った父の家は、仙台市の向山にあった草刈の家で、阿部先輩は時々遊びにおいでになっていたころ、私は小学生か、中学生で何度かお会いしていたらしい。私本人は定かには記憶していない）

阿部先輩はあの独特な語り口で、科会の現状、将来を語り我々後輩に多大な影響を及ぼしたことは間違いない。また盛岡高工創立当時の貴重な経験談を訥々とした口調でのお話を聞けなくなったことは大変残念である。

阿部源祐先輩の冥福を心よりお祈りするのみである。



2017.7.2 仙台双葉ヶ丘特別老人ホーム寶樹荘にて
山崎克己氏 阿部さん 岡本康之

阿部源祐大々先輩へ

柳橋好子（昭和45年電子卒）

「柳橋君、東京での総会に行けないから、みなさんによろしく、次の盛岡での総会には何とか行きたいものだ」とお電話をいただいたのは平成29年度の総会の少し前でした。お元気そうで、いつもの通り一方的に話して、私が「今度100歳のお祝いをしようと話し合っています」とお伝えしようとしているうちに電話が終わっていました。

まあ、総会が終わったらゆっくり電話すればいいと思い、総会の席で阿部相談役からそのような電話をいただいたとみなさんにお伝えしました。

まさか帰郷してその日に阿部相談役の訃報を聞くなんて思ってもいませんでした。

思えば阿部さんと親しくお話できるようになったのはいつごろからだったのでしょうか。遠い昔もお目にかかっていたかもしれませんが、記憶にあるのは草刈先生ご生誕100年の行事に当時科会事務局だった歳弘さんのお手伝いをしたときです。でも大の大先輩ですから恐れ多くて近づけませんでした。

それが、歳弘さんの後任として事務局になって間もなく、「大変な仕事なのに君はこともなげにこなしているね」と声をかけられたのです。とんでもない、四苦八苦しながらもみなさんの寛容なお心におんぶして教えを請いながらの事務局だったので驚きました。それからでしょうか、科会理事会や事業のご案内のたびにお電話をいただき、時にいろんな話をしてくださることがありました。

特に施設に移られてからは理事会への出席もままならず、気になられた時はアドバイスを下さいました。科会の存在意義やあり方については雄弁かつ熱弁で受話器を置くチャンスをどうしようかと悩みました。今思えばもっともっと

お聞きしておくべきだったと後悔しております。科会の創設者として草刈先生や科会への思いの深さ、高齢になってもなお尽きない探究心は先輩のみな様のお話に書かれている通りで、私も感心し尊敬しております。

科会のことに全く関係のない楽しい電話もありました。滝沢村が市になった時に記念切手が発行されましたが、それを送ってほしいとのことでした。阿部さんは一時、滝沢村篠木小学校の代用教員をなさっていたと初めて知りました。篠木小学校は私の住む地域の学区で、啄木の妻節子が同じく代用教員をしていたのでも知られている滝沢市で一番古い小学校です。阿部さんはもう一つ「当時の教え子で〇〇君の消息を知りたい、確か父親の職業は云々」と言われました。地域に古くからいるその名字の方を訪ねて、情報収集、それをお伝えしたのも懐かしい思い出になりました。もちろん記念切手はシートで送って大いに喜んでいただきました。

阿部大先輩、心もとない科会事務局ですが、大先輩の教えを思い出しながら何とか頑張っていきますので、どうぞ見守って下さい。いっぱいありがとうございました。合掌

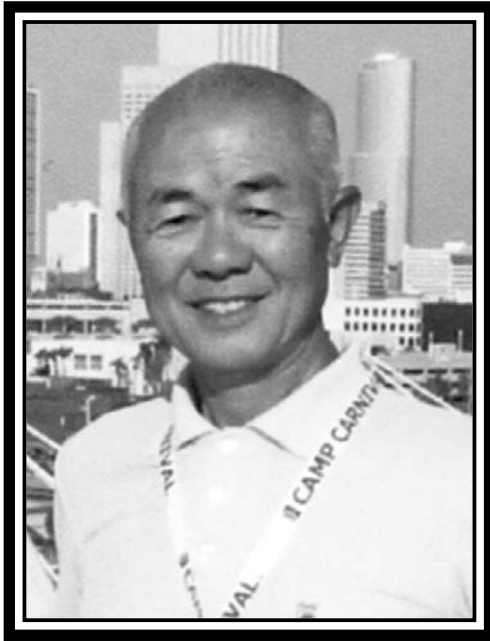


女子学生に囲まれて嬉しそうな相談役

佐々木喜八郎 相談役を偲んで

佐々木喜八郎 相談役

ご 略 歴



- | | |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和6年3月10日 | 盛岡市にて誕生 |
| 昭和23年4月10日 | 盛岡工業専門学校電気科入学
(第10回生) |
| 昭和24年7月18日 | 岩手大学工学部電気工学科入学
(第1回生) |
| 昭和28年3月14日 | 岩手大学工学部電気工学科卒業
(第1回生)
岩手県庁入庁、電力局、企業局
電気課長、企画調整部エネルギー
課長を経て岩手県企業局次長 |
| 平成元年3月31日 | 岩手県庁退職 |
| 平成30年8月2日 | 逝去(87歳) |

科会における主な役職

故佐々木喜八郎氏は卒業以来逝去されるまで、本科会の幹事、理事、会誌「きたかみ」編集委員(長)他、種々の重要な役職を歴任され、科会の発展に多大なる寄与をされました。

- | | |
|---------|---------------------|
| 昭和47年5月 | 理 事(昭和49年6月まで) |
| 昭和49年6月 | 副会長(昭和53年6月まで) |
| 昭和53年6月 | 理 事(平成16年6月まで) |
| 平成14年6月 | 理事・盛岡支部長(平成16年6月まで) |
| 平成16年6月 | 会 長(第19代、平成20年6月まで) |
| 平成20年6月 | 相談役(平成30年8月2日まで) |

「喜八さん」との思い出

小野寺 瑞 穂（昭和 29 年電気卒）

元会長佐々木喜八郎さんとお別れして幾日過ぎた事であろうか。私にはもうこの世でお会いできないということが実感できない。「変りネすかー」とひょっこり現れそうな気がしてならない。旅行仲間が欠けて寂しそうであったがまだまだお元気そうだった。その後、入院されたいと漏れ聞いたが深く考えなかった。今にして思えば痛恨の極みである。

「きたかみ」に貴方の追悼文を寄稿するにあたり、新制岩手大学の 1, 2 回生として始まった長い交遊生活の一端を思い出として書き残したい。勿論、大学に入ってからの際である。貴方は盛岡工高機械科から工専電気科を目指していた。老舗電機業の家庭に生まれ、家業の継承を考えても順当だろう。

戦後の大学昇格問題が起こり新制大学は発足し、喜八先輩は専門 2 年で大学に進学する事に。開学記念日は 24 年 6 月 1 日、前期半ば。順調にスタートするまでは気楽な学生生活を送られたようだ。

喜八さんは、電気を習得すべく盛岡工高から、工専電気科へと勉学に勤しんでいた一面、多趣味な学生だったという。冬はフィギュアスケートに専念。鎌田先生を監督に、選手として日光国体に出場した経験もあり、世が世なれば新聞紙面を賑わしたかもしれない。成績については聞いてはいない。活躍を見たかったものである。

一方当時、市内には自立劇団、職場演劇が盛んになり、学生演劇も脚光を浴びていた。喜八先輩も市内の劇団の一つ「盛岡演劇会」に所属、活躍していた。また、全寮制の名残りの「同袍寮」を解放し寮祭が賑やかに開催されたという。勿論喜八先輩の企画の演劇発表会は人気を集めたとの事。食堂をホールに開放し、社交ダンスパーティーを開催したりと寮祭を盛り上げた

聞く。当時は高校生、入学前の事で、噂を耳にただけで目の当たりにすることは無かった。

小生も高校の部活は演劇部に属し、高校演劇連盟に所属し発表会の舞台に立っていた。観劇の機会を得て『ベニスの商人』のポーシャ姫を演ずる喜八さんに拍手を贈った一人であった。小生も晴れて大学入学を果し演劇部に入部、先輩の指導を受けることになった。

秋の大学祭の演劇公演は、県公会堂で農・工・学芸の競演である。25 年は、文豪チェーホフの「街道」。翌年は独の劇作家クライストの喜劇「こわれ甕」を上演。27 年、先輩の最後を飾る舞台は、内村直也翻案日本版「夜の来訪者」で、先輩の扮する警官役に観客は引付けられた。「こわれ甕」は、小生の主役。郊外にあった「塀の中」の人達の希望に応え、後日、慰問に訪れ喜ばれた。公会堂の舞台は、袖から大道具を搬入できず、緞帳を上げて運び込む人海戦術。幕間休憩は延々数十分。終演は深夜に及ぶも、席を立つ人もなく、万雷の拍手で幕を降ろした。舞台はいつも大成功！やり切ったと云う満足げに微笑む先輩諸兄みんなの顔があった。喜八先輩の統率力、人柄のなせるものかも知れない。来年を託された後輩たちは、「先輩たちの様に優れた力を発揮できるのか？」ふと思った。

喜八先輩には、教わることも多かった。演劇活動を通じ先輩方達との親交も生まれた。得難い贈り物だった。

在学中の交友の思い出話は、これ位とするが、その後互いに、民放、NHKと活動の場は別々だったが、ラジオドラマへの道に進んだ。先輩は県職員として地位を築き、演劇の世界から離れたかと思われたが、「雀百まで云々」通り。かつての演劇に携わった同好者で「帯の会」を結成、盛岡の演劇文化の高揚に尽した。思えば

趣味でつながった友人、いや先輩は絶えることの無い、空気のような存在だった。職場にご挨拶に訪ねれば、上司や部下に屈託なく学生頃の話や芝居の話題をネタに紹介、気配りの人だった。最愛の奥様に先立たれ喜八先輩は「奥

さん大事にしてや」が口癖だった。帯の会で共同演出した「三婆もの語り」。当時の出演者も鬼籍に入られた人も増えました。そろそろそちらで劇団旗揚げを計画中ではありませんか？私も残した仕事を片付けて参ると致しましょう。

佐々木喜八郎元会長を偲んで

歳 弘 健（昭和 33 年電気卒）

私が佐々木さんと初めてお会いしたのは、大学を卒業して岩手県庁電力局（現在企業局）に就職してからです。昭和 22 年のキャサリン台風、昭和 23 年のアイオン台風と相次ぐ水害で北上川下流では大被害を蒙ったのです。この被害を基礎としてまた戦後の復興に対処して国土総合開発が計画され、北上川を中心とする本支川にダム群を建設し、洪水調節、農業灌漑、水力発電等の多目的な大事業が行われていました。その水力発電部門を岩手県が担当することになり昭和 30 年に電力局が発足したのです。佐々木さんは初めからこの企画に参画し、胆沢第二発電所、岩洞発電所、仙人発電所、四十四田発電所、御所発電所と矢継ぎ早に発電所建設に従事され、持前のリードオフマンを發揮して大役をこなしていました。電気課長から本庁のエネルギー課長を経て企業局次長として活躍し、特に従来から各発電所に張り付いていた職員を一か所に集め、遠方制御による集中制御方式を採用し近代化の実現に努力しその功績は大なるものがありました。

一方佐々木さんは学生時代からフィギュアスケートや演劇に関心を抱き、フィギュアスケートは鎌田先生の教えで県代表選手になり国体へ参加する等活躍をし、その後岩手県スケート協会で指導者として後輩の指導に携わりました。その後も鎌田先生を崇拜して結婚の仲人をして

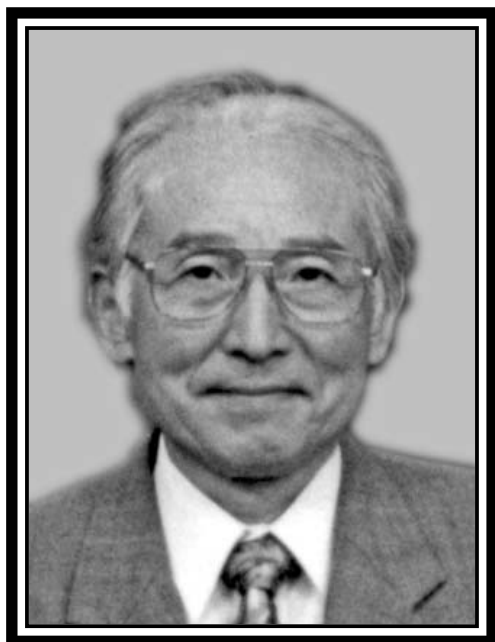
もらったのです。また演劇では盛岡の演劇会に参加して毎年舞台公演をしておりました。或る時佐々木さんに「セリフはどのようにして覚えるのですか」との問いに「約 3 ヶ月位前から妻や子供達と繰り返し練習すれば、自然に相手の会話も全部暗記できる」との返事で、なみなみならぬ努力家だと思いました。これは仕事の面でも發揮されているのかと感心した次第です。それから外国旅行が好きで毎年タイのプーケットへの旅行に際しては、旅行記を面白おかしくお話しする姿を拝見し、楽しくうらやましい気持ちで聞いておりました。

佐々木さんは大学の電気科会へは県庁代表として若い時から熱心に参加され、従って私も科会に参加するようになりました。科会創立 50 周年の記念祝賀会で佐々木さんは司会を担当し堂々とその役をこなし、また科会の大事な時には必ず問題を解決するなど度量の大きさに尊敬の念を覚えておりました。とりわけ現役を退いてから佐々木さんが会長職になられ、私も盛岡支部長の役を仰せつかりその職を全うして現在に至っております。

県庁時代から大学電気科会と 60 年の長いお付き合いの中で、いつも明るく堂々としたお姿を思い浮かべ、また長い間ご指導を頂きあり難く感謝の念に堪えません。どうか安らかに眠り下さい。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

関享士郎先生を偲んで

関 享士郎 先生



ご 略 歴

昭和12年 2月	秋田県で誕生
昭和34年 3月	岩手大学工学部電気工学科卒業
昭和35年 3月	岩手大学工学専攻科電気工学修了
昭和35年 4月	東北製塩化学工業（株）入社
昭和39年 6月	岩手大学工学部助手
昭和48年 2月	岩手大学工学部講師
昭和57年 5月	岩手大学工学部助教授
昭和62年12月	博士（工学）東北大学
平成 3年 6月	岩手大学工学部教授
平成 9年 4月	岩手大学工学部工作センター長
平成12年 9月	日本応用磁気学会論文賞受賞
平成14年 3月	岩手大学定年退官
平成14年 5月	岩手大学名誉教授
平成30年 9月	逝去（81歳）

関 享士郎先生を偲んで

長 田 洋（昭和 62 年電気卒）

去る平成 30 年 9 月 26 日の秋晴れの中、関享士郎先生のご葬儀が、故郷である秋田県鹿角市の長年寺にて執り行われました。先生のご意向により、親族のみのささやかなご葬儀でした。私は関先生にとって初めての大学院生となり、その後も助手としてお世話になったことから、岩手大学関研究室の卒業生を代表して参列させていただきました。

先生は平成 14 年 3 月の定年退官まで、約 38 年の長きにわたって岩手大学で研究と教育に専念されました。

研究では、感温磁性体を核とし、電子回路と一体とした各種センサシステムに関して精力的に取り組まれました。それまで主に磁性材料として評価されてきた感温磁性体の電気的特性が半導体特性やスイッチング機能を有することに着目し、温・湿度同時計測システム、過熱・過電圧保護装置、多機能センサモジュール、超音波計測装置、飲料識別システム、酵素センサシステム等を開発するとともに、十数件もの特許を出願されました。先生が提案したセンサシステムは温度や光などの物理量を計測するシステ

ムだけにとどまらず、味や匂いといった非常に複雑な化学量を計測するシステムまで広範囲に及んでいました。特に、感温部に通電を必要としない接触式磁気型微小温度センサシステムは、センサの自己加熱による試料への熱的影響がなく、酵素反応のような極めて微小な温度を正確に計測することができるため、酵素センサシステムへと応用されましたが、その独創性が高く評価され、平成12年に日本応用磁気学会（現日本磁気学会）より論文賞が授与されています。

教育に関しては、学部における電気回路論、電子回路論等の重要科目、並びに大学院における電子回路理論特論、磁気応用光学特論及びセンサシステム工学特論をご担当され、後進の育成に意を注がれました。

また、この間、大学運営では、学科長や長期計画委員会委員長などを務められ、岩手大学および工学部の管理運営に大きく貢献されました。特に、平成9年度よりは工作センター長として同センターの運営組織の整備に尽力されています。

さらに、照明学会東北支部評議員（平成3年～平成14年）や International Workshop on Wood and Magneto-electronics（平成8年：電気学会、日本木材学会主催の国際ワークショップ）の実行委員長を務めるなど、学会に対しても多大な貢献をしております。

関先生は、その高い識見と温厚な人柄により、学生の学問的啓蒙と人格形成に大いに資するところがありましたし、組織のリーダーとしても大変ご活躍されましたが、一方で、海釣りや農作業など、主に自然を相手としたたくさんのご趣味をお持ちでした。

関先生と千葉さんと私、さらには田山先生や栗田さんと、三陸の海まで釣りへ行ったことを思い出します。ときには民宿へ泊まり、先生の大好きなお酒で遅くまで話したこともありました。



宮古へ鮭釣りに

右より関先生、栗田さん、田山先生、長田

1999年11月20日 千葉さん撮影

ご退官後も何かとお気にかけて下さり、秋ごとに趣味の農園で収穫されたお米などを頂戴しておりましたが、その帰り際、いつも私たちの車が見えなくなるまでお外で手を振ってくださっていた、そのお姿が忘れられません。

強くてやさしかった関先生。

関先生に最後にお目にかかったのはお亡くなるになる前日でした。呼吸をするのもつらそうな状態でありながら、私の手を強く握ってくださいました。最後まで、私の先生でした。

関先生のこれまでのご導きに心より感謝し、安らかに永遠の眠りにつかれる事をお祈りいたします。

関享士郎先生には、ご命日の平成30年9月23日に、これまでの研究・教育に関するご功績に対して、内閣総理大臣より、「瑞寶小綬章」が授与されました。



関 享士郎先生を偲んで

岩手大学技術部 千葉茂樹

関享士郎先生と初めてお会いしたのは、昭和50年3月、岩手県南の工業高校を卒業して間もなくの、技術職員として採用された当時の岩手大学工学部電気工学科電力応用工学講座の研究室の一室でした。当時の電力応用工学講座には、教授に志田純一先生、助教授に三浦守先生、講師に関先生が、技術職員として菊地新司さんがおられ、磁性体の磁気特性を、制御システム、信号処理、センサ等へ応用する研究をされていました。

電力応用工学講座に配属された当初は三浦先生の研究補助と学生実験等を担当していましたが、三浦先生が東北大学へ内地留学された時から、関先生の研究補助と学生実験等を担当し、平成14年に関先生が定年退職されるまでの約20数年ほどの間、一緒に仕事をさせていただきました。

関先生の研究テーマは、キュリー温度が摂氏100度以下のフェライト磁性体を用いたセンサの開発と応用で、磁性体が持つ磁気特性や電気的特性の変化により、温度だけでなく、湿度、光、ガス、圧力、味覚などの検出や測定が可能な事を実験で確かめられ、その研究を補助するため、関係すると思われる分野の事を広く浅くではありますが、勉強しながら、研究室の学生と実験を行って成果を得る事が出来ました。その成果は、電気学会や日本磁気学会、IEEEなどの学会で、連名で口頭発表や論文に掲載させていただき、その中で、電気学会からは論文発表賞を、日本磁気学会からは論文賞を戴くことが出来ました。

また、国際会議にも何度かご一緒させていただき、研究に関する様々な情報を得る事が出来ただけでなく、訪問した国々と日本との歴史・文化や風土の違いなどを体験させていただいた事も今となっては懐かしく思います。

写真は、慶州(韓国)で開催されたINTERMAG99に同行した際に、電気工学科昭和35年3月卒業、平成12年3月に博士後期課程を修了した吉田豊彦さんと関先生です。



写真 左は吉田豊彦さん、右は関先生

定年退職されてからも、年に1度ほどは、電力応用工学講座の卒業生の長田洋教授と、ご自宅にお伺いする機会が有り、昨年もお伺いした際に、3人で機会を見て食事でもしましょうかとのお話が有り、長田先生とは暖かくなってからですかねと話をしている間に、時間が経ってしまい、そうこうしているうち、関先生の体調がすぐれず入院しているとお聞きしたのですが、その事を聞いてから日も経たずに、容体が急変したと連絡を頂きました。しかし、その時盛岡に居なかったため、お見舞いに行く事も出来ずに、お別れする事になってしまいました。

関先生には、在職されていた間も、また、退職された後も、公私にわたり、いろいろとご心配をおかけしました。ご存命中に一つでも、報告する事が出来ていればと、いまさらながらに残念に思います。今からでも、何か良い報告が出来るよう頑張っていきますので、先生、見守っててください。

—退職された先生からの寄稿—

40年を振り返って

岩手大学技術部
太田 康 治



会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

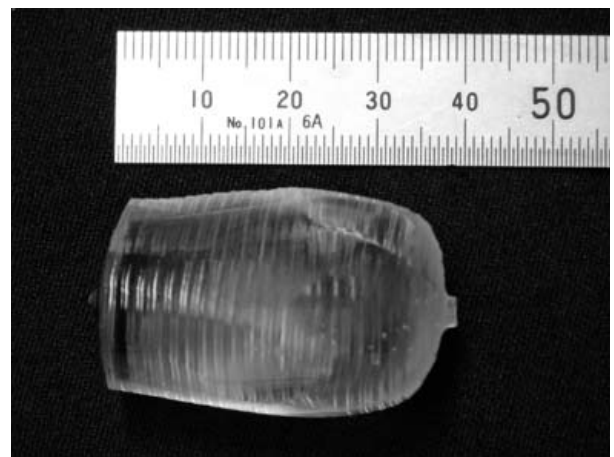
この度、平成30年3月をもちまして岩手大学を定年退職いたしました。昭和53年4月1日に岩手大

学採用になり40年、これまでの人生の3分の2を岩手で過ごしたことになります。盛岡に住んで驚いたのは冬の寒さです。私の故郷は青森県の鮎ヶ沢町という小さな港町なのですが、水道が凍って水が出なくなるということは有りませんでした。水道管の水を抜くという経験はなく、水抜きが不十分で水が出なくなったことが何度かありました。今では盛岡の冬に体が馴染んできたのか、当時ほど寒いと思わなくなりました。

岩手大学に採用された私は工学部電子工学科電子基礎学講座に配属になりました。講座には、教授の池田俊夫先生、助教授の柏葉安兵衛先生、助手の馬場守先生と技官の阿部英志さんが居られ、講座に配属された学生の皆さんが20名ほどで、春には新4年生の歓迎会を兼ねたお花見、夏は雑誌会のゼミ合宿、秋は登山、冬にはスキーと季節ごとに講座の行事があり、今では考えられないのどかな職場でした。

私は池田先生と馬場先生を主に支援をすることになり、電子の振舞いを研究するためのアルカリハライド単結晶を使用して測定をする実験を担当することになりました。実験で使用する単結晶は塩化ナトリウムや塩化カリウム等の試薬を材料として作製するのですが、そのままでは

純度が低いので、純度を上げるために透明石英管に材料を入れ真空蒸留を行います。その後、蒸留した材料を回収するために透明石英管を叩き割って内側に付着している高純度の部分の材料をかき集めるのですが、かき集めるための道具として割った透明石英管の破片を使用しますので、指が傷だらけになり、非常に痛かった思い出があります。単結晶の成長方法はチョクラルスキー法（引き上げ法）で行うのですが、引き上げるのに時間がかかり、朝から作業が始まり終了するのが毎回夜中の1時か2時でした。その後室温まで12時間程徐冷し、結晶を取り出したときに思った以上に大きい単結晶ができていると嬉しくなり、思わず笑顔になったものでした。その後、蒸留する必要のない高純度の材料を使えるようになり傷だらけになるのからは開放されたのですが、これまで1年に1回か2回位しか行わなかった単結晶成長作業が週2回も行われるようになり、とても大変なことになってしまいました。それでも形のあるものをつくるのは毎回楽しい作業でした。



引き上げ法で成長させたKClの単結晶

－退職された先生からの寄稿－

薄膜太陽電池等薄膜電子デバイスの研究をされていた柏葉先生の研究には阿部さんが主に支援をされていましたが、結晶に硫化マンガンを蒸着するために蒸着装置をお借りして、操作やメンテナンスの仕方を教わることができました。このように電子基礎学講座でいろいろな作業を行い、装置を使うことによってガラス工作や真空装置等の知識を習得することができ、技術職員として仕事をするうえで非常に助かりました。

平成5年には物質の電子構造の研究を行っている西館数芽先生が見え、研究室のネットワーク環境が著しく向上し、電子メールの便利さに驚かされました。

平成7年に池田先生が一関工業高等専門学校の校長に就任された後は、馬場先生とこれまで行っていた研究に加えて、新しい研究テーマである全固体型薄膜リチウム二次電池の開発にも技術支援をすることになりました。平成14年には全固体型薄膜リチウム二次電池の研究が経済産業省のプロジェクトに採択され、プロジェクト終了後も企業との共同研究が続き非常に充実した時間を送ることができました。また東京ビッグサイト等で開催される展示会に出展し、他の業種の方々と情報交換をする等、貴重な経験をすることができました。

平成18年に馬場研究室出身の叶榮彬先生が見え、馬場先生の定年退職後は叶先生の薄膜二次電池・太陽電池の研究への技術支援を定年まで担当させていただきました。

学科への支援として学生実験の基礎実験と応用実験を担当することになりました。当時の学生実験は殆どが手作りの装置で実験を行っており、基礎実験の「半導体の導電率の温度特性」で使用するクライオスタットも製品を購入するのではなく、学科の工作室で製作することになりました。馬場先生が設計してくださったものを、工作室の技官の徳田春男さんをお願いして

作製をしていただきました。私は殆ど製作過程を見学していただけでしたが、旋盤等の工作機械で作ったパーツを溶接して組み上げて完成したクライオスタットが製品のようにきれいなものを見て驚いたのを今でもはっきりと覚えています。このときに、ものづくりというものは面白いものだと思います、自分も何か技術を身につけたいと思ったものでした。徳田さんに作っていただいたクライオスタットは40年経った今でも基礎実験で活躍しています。

学生実験が始まると、学生への接し方が判らずに、馬場先生の後ろであまり目立たないようにしていましたので、学生の皆さんは何か変なのがある、と思われたのではないのでしょうか。

採用されてから40年の間には周りの環境も大きく変わり、電気系3学科だけを見ましても、改組により、電気電子工学科と情報システム工学科、電気電子・情報システム工学科となり、工学部が改組して理工学部になった平成28年からは電気電子通信コースと知能・メディア情報コースになっております。この間、最後の数年間は、理工学系技術職員組織の中で名簿上は電気を離れましたが、ずっと電気電子工学科関連の仕事に関わらせていただきました。取り立てて言うほどの技術も持っていなかった私が無事定年を迎えることができたのも、教職員の皆様や卒業生の皆様の暖かいご支援、ご指導があった為と深く感謝申し上げます

定年退職後は再雇用職員として数年ほど岩手大学に勤めることになりましたので、近くまでお越しの際はお立ち寄りいただけますと幸いです。

最後に、皆様のご健勝とご活躍と、電気電子情報科会のますますのご発展を祈念させていただきます。

在職中の思い出

岩手大学技術部
那須川 徳 博



会員の皆様におかれましては、日々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度、平成30年3月をもちまして岩手大学を定年退職いたしました。

私は、民間会社に3年間勤めた後、昭和54年4月に岩手大学に採用され工学部情報工学科に配属されました。この頃は、情報工学科の建物ができたばかりで工学部構内の道路は舗装されておらず、雨が降ると道路がグチャグチャになったこと、とても小さな工学部生協、大学構内や工学部裏に官舎が点在していたこと等、現在とはちょっと異なる風景だったことを思い起こします。

また、勤め始めた頃は週休2日制が始まる前で、半ドンという土曜日12時で勤務が終わることをとてもうれしく思っていました。岩鷲会(電気電子情報学科教職員の親睦会)の歓迎会では、化学北棟が建つ前の桜の木の下でいただきました。今では大学でのお花見というと寒くなる夜しか思い浮かびませんが、土曜日午後の暖かな陽ざしの下でのんびり行われた花見の雰囲気も忘れられません。

最初の4年間は、横山隆三先生の下で働きました。横山先生はリモートセンシングを専門としており、私が赴任した頃は衛星や航空機を使用した観測が始まったばかり。県や沿岸各自治体・漁協等の協力を得て円滑に観測を行うために何度も打ち合わせを繰り返しており、私もその都度運転手としてお供しておりました。

私は工業高校電気科の出身で、最初に勤めた会社では電気設備の保守が主な仕事。強電関係

はある程度わかっておりましたが、大学で必要とされた電子回路/デジタル回路に関する知識・技術があまりありませんでした。

最初は何でも勉強ということで、すぐに仕事を始めるというよりもマイコン(Z80)の勉強をさせていただき、本がボロボロになるまで読み返して回路を製作しました。この頃は、本当にOUTPUT(仕事)よりもINPUT(勉強)ばかり。根がちゃらんぼらん性格も相まって、長い期間に渡り皆様には多大なるご迷惑をお掛けしたことと思います。また、学生実験も担当しましたが、今まで人に説明をするという経験がほとんどなく、しどろもどろの説明で学生の皆さんはさぞ退屈でわかりづらい事だったでしょう。

勤め始めた頃は、盛岡にあまり知り合いもおらず退屈にしておりましたが、学生と年齢的に近いことや当時は独身で自由に時間が取れたことから、一緒にドライブへ出かけたり上田通りへ飲みに行ったりしたこと等はなつかしい思い出です。

昭和58年からは田山典男先生の下で働き出し、PIPEという3次元並列画像処理計算機の開発で本格的にデジタル回路の設計・製作に携わることになりました。相馬孝志技官とは数年間田山先生の下で一緒に働きましたが、朝は少し遅く出てきて帰りは夜中の12時に帰るような生活をされていました。私もそれにつられたようであり、大学に遅くまで残っていてもあまり苦にならないという体質は、この頃に感化されたのかもしれませんが。また、見様見真似で大量の回路設計やボード製作を行っており、少しは技術が身についてきたかなと感じ始めた頃でした。

平成4年には、田山先生が1年間ニューヨー

－退職された先生からの寄稿－

ク州立大学へ在外研究員として滞在するなどの事情から、これを機に千葉則茂先生の下で働くことになりました。ここでハードウェアの世界からソフトウェア(Computer Graphics)の世界へ少し首を突っ込むことになり、いくつかCGプログラムを書いてみたりするのですが、数学/物理が苦手であっけなく挫折。仕事の中心は潤沢な予算により大幅に台数が増えたUNIXマシンのお守りが主となりました。

平成7年には、SIGGRAPH 95 エレクトリックシアターに研究室の2,3件の動画が入選するという快挙により、ロサンゼルスにおまけで連れて行ってもらうといううれしいことも。学会やCG上映もしっかりと見てきたものの、ショップのおばさんと意思疎通ができず、あんな英語話せないの?しょうがないね~ \(\cup-\cup)/みたいな表情/ジェスチャーに、英語を勉強するぞという気になったものでした。

平成8年には、研究室のWebサーバーの立ち上げと同時にライブカメラも稼働させました。このライブカメラは東北初だったと思います。現在も運用しておりますので、「岩手山 ライブカメラ」というキーワードで検索してみてください。



岩手山ライブカメラからの画像

街中の風景は変わったかもしれませんが、岩手山は会員の皆様が在学していた当時のままの姿を見せてくれると思います。ライブカメラは

運用開始から23年目に入りましたが、当初に比べて解像度も高くなり画像の鮮明さもアップしております。

平成13年頃からは、教員と技術職員の組織が分かれ、工学部の技術職員は工学系技術室(現理工学系技術部)へ移行し、研究室・講座に所属する技術職員という形から工学系技術室から講座へ技術職員が派遣されるという形になりました。また、所属する学科だけではなく他学科や他学部、さらに全学への支援も行うという体制に変わり、この頃からは実質的に研究室・講座の仕事半分、他の仕事半分という内容に変わってきたと思います。

その後、平成18年には工学系技術室から情報技術室が分離したことに伴い、私も大学本部へ居場所を移しました。全学での支援が主になったことにより、工学部に関する仕事と言えば週1回の学生実験のみでした。

それから、平成22年の人事異動で工学系技術室に復帰し、ふたたび千葉則茂先生の下で働き出し千葉則茂先生が定年退職する平成29年までお手伝いをしました。その後は、藤本忠博先生の担当を主としてデザインメディア講座やコース(旧学科に相当)の業務も支援しております。

なお、定年退職後は、非常勤職員として岩手大学に数年勤めさせていただくことになりました。もし、岩手大学にお越しになる機会がございましたら、お声を掛けていただければ幸いです。

縁あって岩手大学という「知の集約」とも言えるべき環境に身を置くことができ、本当に幸せだったと思います。普通の企業・会社に勤めていれば経験できないことをいっぱいさせていただきましたし、教職員だけでなく学生からも刺激を受けることが多々ありました。

最後になりましたが、今後の皆様のご健勝とご発展と併せ、電気電子情報科会のますますの発展を祈念させていただきます。

電気電子通信コースの近況

システム創成工学科

電気電子通信コース長 小林 宏一郎

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素よりコースの運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。本コースは、平成28年4月から、理工学部システム創成工学科の電気電子通信コースに改組され3年目になります。今年度は、4月から岩井守生助教が就任し、教授7人、准教授5人、助教4人の16人で教育研究を行っています。岩井助教は、工学部福祉システム工学科、同専攻博士前期課程、電気電子・情報システム工学専攻博士後期課程を修了し、その後本学ものづくり研究センター生産技術研究部門特任研究員を経て、本コースに採用されました。専門は、センサ工学、計測工学、信号処理工学であり、生体信号の計測システムの開発や各種信号処理の研究を行っています。本コースは、ここ数年で退職者と新規採用があり、若干若返った印象です。

平成30年4月6日に入学式が行われ、本コースでは新入生63人を迎えました。また、理工学部専攻の入学者168人であり、そのうち本コースには37人(約22%)が所属しており(2018年4月現在)、2番目に大学院生の多いコースになりました。本コースの今年度の進学率は、他大学を含めて6割弱となり、例年通りの印象でした。大学院進学者が多いことは、本コースへの企業からの期待される人材として大学院生が多いことによると思います。昨年度の大学院修士課程の改組により、講義科目やコース横断プログラムなどが増え、大学院生は益々研究の時間が少なくなってきました。現在のグローバル社会の中で活躍できる人材育成のためにも幅広い知識や教養を備え活躍できる人材の育成に努めてまいりたいと改めて思いました。

進路状況としまして、例年通り電力系、電機メーカ、通信、運輸など幅広い分野に就職しました。これも電気電子情報科会の先輩方のお力添えのたまものあり、深く感謝申し上げます。

本コースについていくつかのニュースをご

紹介します。阿部貴美助教が、9月1日から12月8日までカナダのサスカチュワン大学へ短期留学を行いました。留学の主な目的は①教育法を学ぶこと、②工学部のSafa Kasap教授のもとで研究を行うことです。教育法に関しては、アクティブラーニングに関するワークショップを受講し、実践を通して効果的な授業の方法を学びました。研究に関しては、岩手大学で育成したZnO単結晶基板を持参し、様々な測定を行いました。結果、多くの新しい知見を得ることが出来ました。ZnO単結晶の研究でサスカチュワン大学との新しいコネクションもできました。今回の留学で得た経験を今後の教育と研究の両方に活かして頂きたいと思います。また、社会人から学生へ向けた講義として「電気電子工学専門研修(旧社長実践学)」を実施(予定も含む)しています。富士通研究所 佐々木様(本学OB)、半導体産業人協会 牧本様、市山様、竹中工務店技術研究所 山崎様、アイシン・コムクルーズ 加藤様、東北大学電気通信研究所 佐藤様、矢崎総合 植松様にご講演いただきます。これまでの講演では、普段大学では聞けない会社での話を聞くことができ、学生は興味深く講義を聞いていました。11月には3年生の工場見学が実施され、関東方面として、東芝エネルギーシステムズ株式会社、アンリツ株式会社、アズビル株式会社、株式会社フジクラの工場見学に約30名が参加しました。県内方面として、東芝メモリ岩手株式会社、ジャパンセミコンダクタ株式会社、アイシン東北株式会社に約20名が参加しました。改めまして、ご対応いただきました関係各位に御礼申し上げます。

夏には文部科学省より平成31年度の大学院博士課程の改組が認められて、春には新たに理工学研究科ができます。

最後になりますが、教職員一同、魅力ある大学、コースになるように努力していく所存です。今後とも会員の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

知能・メディア情報コースの近況

システム創成工学科

知能・メディア情報コース長 永田 仁 史

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平成30年度の本コースの近況をお届けします。

平成28年の学部改組から3年が経過し、理工学部システム創成工学科、知能・メディア情報コースとなってから3年目を迎えました。また、昨年度の修士課程改組からも2年目となり、この3月には新課程の修士修了生が出るようになります。今年はさらに、博士課程の改組が認可されたため、来年度からは新しい博士課程もスタートし、これで学部・大学院の組織が全面的に一新されることになります。

教育・研究活動においては、学生や修了生を中心とした研究発表等に関して多くの受賞がありました。とくに、近年参加しているETロボコンに関しては、平山貴司講師らが中心となって活動しているチーム「がんちゃん

+One」が東北地区大会のデベロッパー部門アドバンストクラスに出場して総合優勝し、さらに、11月にパシフィコ横浜にて行われた「ETロボコン2018チャンピオンシップ大会(全国大会)」において準優勝を飾り、ゴールドモデル賞、IPA賞(信頼性等の評価)も受賞しました。この部門は出場計67チームであり、多くの注目を集める全国大会での受賞は価値が高く、今後一層の活躍が期待されます。

教職員の構成については、本年度に昇進、退職された方がいないため変わっていませんが、全体に一年加齢したとも言え、組織の新陳代謝も重要課題になっております。本コースは、社会の要請に応えられるコースとしてこれからも教職員一同努力をしてゆく所存ですので、会員の皆様には益々のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



－草刈賞－

第15回（平成29年度）草刈賞受賞者

草刈賞を受賞して

私が草刈賞を受賞したのは昨年になりますが、伝統のある草刈賞を頂いたこと、大変光栄に思います。4年間の大学生活を通して、大学での学業だけでなく、留学や enPiT、学内カンパニー、ハッカソンへの参加など多くの課外活動を行って参りました。副代表として携わった学内カンパニーや滝沢で行われたハッカソンでは賞を頂くなど、様々な形で成果を残すことができたのではないかと感じております。

私は現在、電気通信大学大学院に進学し、新たな研究室での生活を開始しました。修論研究だけでなく、共同研究や ARLISS と呼ばれる月面探索ローバーの大会に参加するなど充実した研究生活を送っています。また来年3月からはトビタテ留学 JAPAN の採択を受け、1年間の

情報システム工学コース 速水陽平

研究留学をする予定です。さらに研究室以外の活動として、HLAB というリベラルアーツを根幹に据えて高校生の主体的な進路選択を目指す NPO の活動にも携わらせて頂き、宮城県女川町でのサマースクールを運営するなど、今年も多くの経験をしました。

多くの活動をすることは多様な価値観に触れ自分の可能性を広げるという意味でとても大切なことだと思います。私は結果として後輩の模範となるような学生に贈られる草刈賞を頂くことができたわけですが、後輩の皆さんも怯まず多くのことにチャレンジしてほしいと思います。最後にこれまで支えてくださった皆様と、なにより家族に感謝し、これからも多くのことに挑戦していきたいと考えています。



右端が筆者

平成 30 年度東京支部報告

東京支部長 狩野利之(昭和61年電子卒)

1. 平成 30 年度東京支部大会開催

平成 30 年度の東京支部大会は、6 月 30 日(土)に、新宿・サンパークホールにて開催されました。東京支部大会としては、開催時期を 10 月から 6 月に移して支部単独開催となりました。本年度は、昨年度の東京での本部総会との合同開催の影響が心配されましたが、54 名の方々にご参加いただき、盛大に開催されました。

大会は、久保田賢二新会長、一祐会・高橋克幸理事からご挨拶をいただき、支部活動の報告、会計に移りました。次に新年度に向けて、新役員を選出(高橋圭介副支部長(H07 電気)、三浦友規事務局(H16 院)の 2 名)、及び活動計画と予算が原案どおり了承されました。

そして、今年は会員の叙勲の報告がありました。叙勲されたのは、久保田勉氏(S45 電気)で瑞宝小綬章(科学技術行政事務功労)を受けられました。久保田賢二会長から花束をお贈りし、出席者全員でお祝いをいたしました。

講演会は、講師に知能・メディア情報コース長・教授の永田仁史先生をお招きして、「学内近況と研究・養蜂」と題してご講演をいただきました。大学での取り組みに加えて、ご興味を持たれている事柄にも触れて、とても興味深い内容でお話いただきました。

懇親会は、三曲部 OB による尺八の演奏、会員のマイブームのご紹介、そして、皆様お楽しみ語り継ぐ歌の大合唱であつという間に中締めとなりました。

また今年度は、大会には参加できないが、活動や運営に協力したいという支部会員の方々の声をいただき、賛助会費をお願いしたところ 34 名の方からご賛同、ご支援をいただきました。心より御礼を申し上げます。



東京支部 URL : <http://iueei-tokyo.main.jp/>



ホームページ



フェイスブック

2. 支部 OB による大学訪問

支部大会の開催とともに支部として重点的に取り組んでいる施策に、大学への OB 訪問があります。これは、研究室訪問や現役学生との交流をとおして、近い将来に就職などで首都圏に勤務することになる皆さんが少しでも同窓会の意義や活動の理解と活性化と、その同窓会活動に参加しやすい環境を作ることを目的として開始し、今度で 4 回目になります。

今年度は 10 月 19 日(金)に実施いたしました。東京支部からのメンバーは、支部事務局の加瀬貞二氏(H04 卒)、三浦友規氏(H16 院)、そして支部会員から佐伯勇輝氏(H04 卒)、内藤千寿氏(H05 卒)の 4 名。訪問させていただいた研究室は、永田先生、平山先生、金先生、本間先生、向川先生、そして三浦先生の 6 研究室です。各研究室では、研究の内容や成果をわかりやすく学生さんにご説明いただき、大学の様々な取り組みの現状を知ることができました。また、夜の懇親会でもさらに交流を深めることができました。これらのスケジュール調整は今年の支部大会にもご来賓としてご出席いただいた電気電子通信コースの高橋克幸先生のご協力をいただきました。ありがとうございました。詳しい内容は支部ホームページでご紹介します。



《支部だより》

平成 30 年度仙台支部報告

仙台支部長 数 藤 崇 (昭和 52 年電気卒)

●平成 30 年の支部活動は、1 月 20 日(土)の役員会+新年会からスタートいたしました。役員会では年間スケジュールの確認と 4 月に予定される「長寿を祝う会」の進め方について議論し、その後新年会を行い、情報交換と親睦を深めました。

●4 月 21 日(土)は役員会にて 6 月開催予定の支部総会の準備確認事項を実施した後、第 10 回「長寿を祝う会」を開催いたしました。

対象者：S37 年卒の 4 名の方にご案内をしたところ、下記 2 名の方に出席いただきました。

・小原左武生さん (S37 電気)、小原四郎さん (S37 電気)

●6 月 16 日(土)：支部総会当日の午前中は、東日本大震災から 7 年になりますが、津波被害を受けた仙台市荒浜地区の「震災遺構：仙台市荒浜小学校」を訪れ、当時の状況を改めて体感し

てきました。

午後の支部総会は、来賓として篠福会長をお迎えし、ハーネル仙台において開催しました。議事として H29 年度事業報告・決算報告及び H30 年度事業計画等の審議が行われ、最後に役員改選が行われ、

・支部長：数藤崇 (S52 電気)、副支部長 2 名
田中利光 (S53 電気)、田代良二 (S55 電気)
が選任されました。

総会に引続き 2 名の先生による「講演会」を開催し、懇親会にも出席いただきました。

講演 1 「マイクロ波を用いたヒトセンシング」

岩手大学理工学部 教授 本間尚樹氏

講演 2 「若者とのコミュニケーション」

仙台工業高等専門学校

教授 柏葉安宏氏



《支部だより》

平成 30 年度盛岡支部報告

盛岡支部長 宮手 敏 雄 (昭和 44 年電気卒)

昨年 6 月の支部総会で盛岡支部長を仰せつかりました。未だに右往左往が続いておりますが、よろしくお祈りいたします。

盛岡支部の活動は盛岡市周辺で活躍している事業所の見学会と、科会本部と共催している「新年会」がメインイベントです。

＜盛岡セイコー工業見学＞

今年度は科会理事で盛岡セイコー工業(株)取締役品質管理部長の國保章子さん(昭和 54 年電子卒)のご協力で、会員 13 名が 11 月 2 日(土)午後に小岩井駅近くの同社腕時計工場を訪れました。

緑溢れた広い敷地に、電池式クォーツ腕時計のムーブメント(機構部)を組み立てる自動化された無人のライン工場と、国内唯一のゼンマイ

式機械腕時計の「雫石高級腕時計工房」があります。50 台ほどの岩谷堂箆筒特注の作業台で卓越技能士さんが、顕微鏡越しに時計を組み立てる姿と、完成した腕時計の機能美に驚きました。

ゼンマイ式高級機械時計のお値段は 50 万～5 千万円!この日も直販カウンターで、一線を退いたと思われる初老の紳士が夫婦で品定めをしておられ「これまでの自分へのご褒美」が多いそうです。

＜盛岡支部新年会＞

科会本部と盛岡支部の新年会を 1 月 26 日(土)午後 3 時から市内のホテルで開きました。久保田賢二会長は挨拶に引き続き、6 月の本部総会で退任された篠福寛前会長に労いの花束を贈呈しました。平成 30 年 3 月末に岩手大学を定年退職された安倍正人先生、太田康治先生、那須川徳博先生は、ご都合がつかず欠席されました。

懇親会は出席者最高齢の太田圭一さん(昭和 24 年工専卒)の元気なご発声の乾杯で始まりました。この日は仕事などで参加できない方が多く、出席は 24 名に留まりましたが、東京・仙台両支部長からの活動報告や、出席者ほぼ全員から近況報告や所属企業の紹介、長寿の秘訣のご披露もあり、新年会を盛り上げていただきました。

限られた 2 時間でしたが和やかでアットホームな平成最後の新年会は、事務局で副会長の柳橋好子さんの中締めで散会しました。



盛岡セイコー工業見学



新年会 平成 31 年 1 月 26 日

平成30年度岩手大学電気電子情報科会総会

平成30年度岩手大学電気電子情報科会総会は、平成30年6月23日（土）、盛岡市ホテルルイズで開催されました。

情報平成3年卒木村彰男理事の司会で始まり、電気電子通信コース長小林宏一郎教授にご祝辞を頂戴しました。

議長に電気52年卒数藤崇仙台支部長、書記に電気44年卒宮手敏雄氏と電電院平成20年修阿部貴美氏が選任されて議事に入りました。

数藤議長の進行により第1号議案から第4号議案まで事務局から説明がなされ、すべて異議なく承認されました。

第5号議案役員の選出については、役員選考委員長の柏葉安兵衛相談役から旗福寛会長が辞意を表明したので、選考委員会を4回開催し、電気42年卒久保田賢二氏を会長候補として選出したことが説明されました。同時に電気38年卒及川二千朗氏の後任の会計監査に電子62年卒佐々木眞嗣氏を、新理事に電子54年卒國保章子氏、電子平成元年卒伊東寿枝氏、電気平成2年卒村田崇氏を選出したことも説明されました。

事務局より電気38年卒旗福寛氏が相談役に委嘱されたこと、新任幹事として東京支部は電子61年卒田口之博氏、仙台支部は電気53年卒田中利光氏、盛岡支部は情報平成4年卒千葉幸二氏と情報平成6年卒金沢博昌氏が委嘱されたことが報告されました。

第5号議案は異議なく承認されました。

科会では、会員が叙勲された場合に総会で祝意を表します。今年度は電気45年卒久保田勉氏が瑞宝小綬章を受章されたことが報告され、祝意を表しました。

総会後の特別講演は、草刈功労特別賞受賞者の電気30年卒太田原功相談役にお願ひしました。演題は「岩手大学電気電子情報科会の歩みをふりかえる」。昭和17年1月1日の科会設立から現在に至るまでの科会の歩みを、事細かく丁寧にご話して下さいました。科会の貴重な資料となるでしょう。

その後は、懇親会にうつり、立花副会長の司会のもと、知能・メディア情報コース長永田仁史教授にご祝辞を頂いた後、ホテルルイズの美味しい料理を楽しみながら親交を深め合いました。



平成30年度 岩手大学電気電子情報科会総会

平成30年6月23日 ホテルルイズ

平成 30 年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録

日時：平成30年6月23日(土) 14:30～15:30
場所：ホテルルイズ 青海の間
司会：木村 彰男 氏(理事・事務局 情報H3卒)
議長：数藤 崇 氏(理事・仙台支部長 電気S52卒)
書記：宮手 敏雄 氏(理事 電気S44卒)、
阿部 貴美 氏(電電院H20修)

○議 事

●第1号、第2号議案について

事務局より平成29年度事業、5件(①会誌「きたかみ」64号発行、②ホームページ検討委員会の活動、③正会員歓迎会の開催、④草刈賞委員会の活動、⑤会費検討委員会の活動)について概要が報告された。関連して平成29年度の決算報告が行われ、続いて及川会計監査より監査報告が行われた。

議案は異議なく承認された。

●第3号、第4号議案について

事務局より平成30年度事業計画案(①会誌「きたかみ」65号発行、②ホームページ委員会の活動、③正会員歓迎会の開催、④草刈賞委員

会の活動、⑤会費検討委員会の活動)が説明された。続いて事業計画を勘案した平成30年度の予算案について詳細な説明が行われた。

議案は異議なく承認された。

●第5号議案について

役員選出について役員選考委員長の柏葉安兵衛氏より説明があった。役員選考委員会(小野寺瑞穂氏、太田原功氏、柏葉安兵衛氏、武田寿郎氏、吉田英夫氏、長田洋氏)を4回開催し、久保田賢二氏を新会長候補として選出したことを説明した。このほか新任の理事候補に國保章子氏、伊東寿枝氏、村田崇氏を、会計監査候補に佐々木眞嗣氏を選出したことを説明した。事務局より、相談役に簗福寛氏が委嘱されたこと、盛岡支部の新任幹事に千葉幸二氏と金澤博昌氏、仙台支部の新任幹事に田中利光氏、東京支部新任幹事に田口之博氏が委嘱されたことが報告された。また、盛岡支部長に宮手敏雄氏が就任したことが報告された。

議案は異議なく承認された。



新旧会長
「バトンタッチ」

○その他

●科会員叙勲の報告

事務局から元参議院事務局上席調査員の久保田勉氏(昭和45年電気科卒、神奈川県在住)が、科学技術行政事務功労者として平成30年春の叙勲で瑞宝小綬章を受章されたと報告があった。



特別講演



平成30年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿

(平成31年1月1日現在)

役職名	氏名	卒業(卒回)	役職名	氏名	卒業(卒回)
会長	久保田 賢 二	S 42 (気 15)	東京支部		
副会長	恒 川 佳 隆	S 55 (気 28)	幹 事	薄 衣 文 雄	S 41 (気 14)
副会長・事務局	柳 橋 好 子	S 45 (子 1)	幹 事	小 磯 巖 男	S 51 (気 24)
副 会 長	立 花 龍 一	S 61 (情 8)	幹 事	畠 山 主	S 54 (情 1)
理 事	小野寺 瑞 穂	S 29 (気 2)	幹 事	吉 澤 和 弘	S 54 (情 1)
理 事	佐 藤 匡	S 40 (気 13)	幹 事	畠 山 寧	S 59 (子 15)
理 事	吉 田 英 夫	S 41 (気 14)	幹 事	田 口 之 博	S 61 (子 17)
理 事	武 田 寿 郎	S 41 (気 14)	幹 事	山 道 隆 男	S 62 (気 35)
理 事	千 葉 則 茂	S 50 (気 23)	幹 事	富 塚 秀 樹	H02 (気 38)
理 事	國 保 章 子	S 54 (子 10)	幹 事	中 山 靖 茂	H04 (気 40)
理 事	鳥谷部 達 雄	S 56 (情 3)	幹 事	遠 藤 慎 介	H04 (子 23)
理 事	伊 東 寿 枝	H01 (子 20)	幹 事	三 浦 友 規	H16 (電電院)
理 事	村 田 崇	H02 (気 38)	盛岡支部		
理事・盛岡支部長	宮 手 敏 雄	S 44 (気 17)	幹 事	岡 英 夫	S 48 (子院 4)
理事・仙台支部長	数 藤 崇	S 52 (気 25)	幹 事	池 内 達	S 50 (子 6)
理事・東京支部長	狩 野 利 之	S 61 (子 17)	幹 事	佐 藤 信	S 57 (子 13)
理事・事務局	長 田 洋	S 62 (気 35)	幹 事	佐 藤 文 昭	S 59 (子 15)
理事・事務局	木 村 彰 男	H03 (情 13)	幹 事	泉 澤 栄	S 60 (子 16)
会 計 監 査	大 坊 真 洋	H11 (電情博)	幹 事	高 橋 康 浩	S 62 (気 35)
会 計 監 査	佐々木 眞 嗣	S 62 (子 18)	幹 事	伊 東 寿 勝	H01 (気 37)
顧 問	志 田 純 一	特	幹 事	千 葉 幸 二	H04 (情 14)
顧 問	佐々木 經 夫	特	幹 事	金 澤 博 昌	H06 (情 16)
顧 問	藤 原 民 也	特	幹 事	鈴 木 順	H12 (電電 5)
相談役(元会長)	山 崎 時 男	S 24 (専 8)	仙台支部		
相談役(元会長)	阿 部 長 一	S 19 (専 4)	幹 事	千 葉 浩 克	S 40 (気 13)
相談役(元会長)	太田原 功	S 30 (気 3)	幹 事	田 中 利 光	S 53 (気 26)
相談役(元会長)	柏 葉 安兵衛	S 38 (気 11)	幹 事	菅 原 利 一	S 55 (気 28)
相談役(元会長)	籾 福 寛	S 38 (気 11)	幹 事	田 代 良 二	S 55 (気 28)
			幹 事	柏 葉 安 宏	H09 (電電 2)

平成 30 年度電気電子通信コース、 知能・メディア情報コース構成員名簿

平成 31 年 1 月 1 日現在

電気電子通信コース (コース長 小林宏一郎 教授)	
職 名	氏 名
教 授	長 田 洋
教 授	小 林 宏一郎
教 授	高 木 浩 一
教 授	恒 川 佳 隆
教 授	西 館 数 芽
教 授	本 間 尚 樹
教 授	向 川 政 治
准 教 授	叶 榮 彬
准 教 授	秋 山 雅 裕
准 教 授	菊 池 弘 昭
准 教 授	大 坊 真 洋
准 教 授	三 浦 健 司
助 教	阿 部 貴 美
助 教	岩 井 守 生
助 教	佐 藤 宏 明
助 教	高 橋 克 幸
助 教	田野崎 真 司

知能・メディア情報コース (コース長 永田仁史 教授)	
職 名	氏 名
教 授	今 野 晃 市
教 授	永 田 仁 史
教 授	西 山 清
教 授	萩 原 義 裕
教 授	藤 本 忠 博
准 教 授	明 石 卓 也
准 教 授	木 村 彰 男
准 教 授	金 天 海 偉
准 教 授	張 建 偉
准 教 授	中 谷 直 司
准 教 授	松 山 克 胤
准 教 授	山 中 克 久
准 教 授	吉 森 久
講 師	平 山 貴 司
助 教	佐 藤 信
助 教	藤 岡 豊 太
助 教	盧 忻
事務補佐員	懸 田 ひかる

理工学系技術部

職 名	氏 名
第一技術室長	星 勝 徳
技術専門職員	志 田 寛
技術専門職員	千 葉 寿
技術専門職員	萩 原 由香里
技術職員	増 山 静 香
技術職員	平 山 有 沙
技術職員	藤 原 步
技術職員	古 館 守 通
技術職員	石 川 利 明
技術職員	太 田 康 治
技術職員	千 葉 茂 樹
技術職員	那須川 徳 博

情報技術部

職 名	氏 名
技 術 室 長	栗 田 宏 明

偶 感



私たちの母校、岩手大学工学部の在る盛岡市は、江戸時代初期、南部氏10万石（江戸時代後期20万石）によって築かれた城下町です。私が幼少のころよく

歌った盛岡市民歌の「黄金咲くみちのくの…」の意味が深いことに漸く気がついた。寒冷地のため、ヤマトの国でも開発が遅れたが、金の産地であることが判り、国の内外から注目される時代がやってくる。

奥羽山脈と北上山地の間を南流して宮城県石巻市で太平洋に注ぐ、母なる北上川の流域は金の産地が多く、世界遺産中尊寺の文化が生じたことも理解できる。又、多くの扇状地による豊富な湧水のおかげで、良質な農産物にも恵まれて、高度な文化を持っている。最近は工業生産にも及んで活況を呈している。

河口から200kmもある盛岡を流れる清流中津川にも毎年秋、ふるさとの花崗岩地層からの湧水を目指して、産卵に帰ってくる鮭の群れが見られる。

盛岡城のある盆地は、南は開けて水田が多いが、周囲には秀麗岩手山をはじめ多くの名のある山々が連なっている。地盤は花崗岩で清水の湧水に恵まれ、周囲の山々からは、その森林を通った清純な空気が風となって流入し、風光明媚な環境の中で生活しています。勉学・研究には、誠に恵まれている所です。

山崎 時 男（昭和24年工専電気卒）

このような環境の中で青春時代を過ごしたということは、人生大変幸せなことだったと思います。どうぞ皆様、人生の中の盛岡時代を想いながら、よりよい人生を迎えるよう願っています。

ちなみに盛岡市の花は、初夏に咲く“カキツバタ”です。NHK ラジオ深夜便の誕生日の花ことば“カキツバタ”は5月11日・“幸福が来る”です。

私たちの科会の創立70周年記念式典は2011年10月29日（土）、東京都千代田区九段北、私学会館に在るアルカディア市ヶ谷で行われた。参加者・賛助者計400名で盛大であった。その席で尊敬する草刈先生の名のある“草刈功労賞”を、科会創設者のお一人である阿部源祐さん（1回生）はじめ4名に授与され、科会の発展を祝った（受賞者計18名）。仙台ご出身の恩師名の入った草刈功労特別賞を頂き、盛岡で勉強した私共に更に大きな教えを下さったと思います。

その盛岡に大変嬉しいことが地元新聞紙岩手日報に載りました。1昨年12月「岩手はアルカディア（理想郷）」と盛岡の展覧会に合わせて盛岡を訪れた松本零士さんは話された。松本零士さんは皆様ご存知の「宇宙戦艦ヤマト」、「銀河鉄道999」等「何のために描くのか」という目的意識を大切にしている方です。

アルカディアは西洋の桃源郷で、オリンピック発祥地、ギリシャのペロポネソス半島に在る西洋の理想郷です。

平成 30 年年表

1/18	理事会・新年会会場打合せ 柏葉相談役・久保田盛岡支部長・柳橋副会長 盛岡市ホテルルイズ
1/19	電気電子工学特別研修 「パルスパワー技術とプラズマ物理を駆使したイノベーション創出」秋山秀典氏（融合技術開発センター社長）
1/23	理事会・新年会打合せ、「きたかみ」64号第2回編集委員会、29年度第3回会費検討委員会 旗福会長・柏葉相談役・立花副会長・久保田盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋理事 理工学部地域連携センター
1/23-24	平成30年度大学院総合科学研究科理工学専攻第2期入学選抜試験《平成30年4月入学》、電気電子通信コース志願者9名（外国人留学生特別選抜2名、社会人特別選抜は志願者なし）、知能情報コース志願者2名（外国人留学生特別選抜、社会人特別選抜ともに志願者なし）
1/25	平成30年度大学院工学研究科博士課程第2期入学選抜試験《平成30年4月入学》、電気電子・情報システム工学（情報）専攻志願者1名
1/26	電気電子工学特別研修 「私の人生観・電子業界から福祉業界へ」八重樫幸夫氏（パターンアート研究所社長）
1/26	電気電子工学特別研修 「水素製造技術を活用した再生可能エネルギー出力変動対策について」加藤尚氏（東北電力） 「カミナリを農業に役立てる：高電圧・プラズマの農水分野への高度利用」高木浩一（岩手大学）
1/27	平成29年度第3回理事会 15人 盛岡市ホテルルイズ
1/27	盛岡支部主催科会新年会 盛岡市ホテルルイズ 30人
1/31	入学願書受付締切、システム創成工学科電気電子通信コース：前期1.8倍、後期3.8倍、同知能・メディア情報コース：前期1.8倍、後期4.5倍
2/1	「きたかみ」64号第3回編集委員会 会費検討委員会 柏葉相談役・立花副会長・長田理事・木村理事・柳橋副会長 岩手大学理工学部
2/5	草刈賞選考委員会 岩手大学理工学部 選考委員 電気電子工学コース：小林宏一郎（コース長）・叶榮彬（4年生担任） 情報システム工学コース：荻原義裕（コース長）・金天海（4年生担任） 電気電子情報科会：旗福寛（会長）・柏葉安兵衛（相談役・選考委員長） 第15回草刈賞候補者 速水陽平（情報システム工学コース）
2/9	電気電子工学特別研修 「ものづくり技術を高めるソフトウェア開発」加藤喜昭氏（アイシン・コムクルーズ社長）
2/15	「きたかみ」64号第4回編集委員会 柏葉相談役・旗福会長・立花副会長・久保田盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋副会長 岩手大学理工学部
2/16	電気電子・情報システム工学専攻（電気電子工学分野）修士論文審査会
2/16	電気電子・情報システム工学科（情報システム工学コース）卒業研究発表会
2/19	電気電子・情報システム工学専攻（情報システム工学分野）修士論文審査発表会
2/23	「きたかみ」64号校了
2/25	平成30年度個別学力検査前期日程、システム創成工学科電気電子通信コース志願者69名、同知能・メディア情報コース志願者63名
2/28	安倍正人先生最終講義 岩手大学復興祈念銀河ホール
3/1	「きたかみ」65号発行5400部
3/2	電気電子・情報システム工学科（電気電子工学コース）卒業研究発表会
3/7	新正会員歓迎会 61人（新正会員・院生45人） 岩手大学理工学部生協食堂
3/12	平成30年度個別学力検査後期日程、システム創成工学科電気電子通信コース志願者46名、同知能・メディア情報コース志願者54名
3/23	岩手大学卒業式・修了式 工学部第66回卒業生：電気電子・情報システム工学科119名（電電コース66名、情報コース53名） 大学院工学研究科博士前期課程第49回修了生：電気電子・情報システム工学専攻49名 大学院工学研究科博士後期課程第18回修了生：電気電子・情報システム工学専攻2名
3/31	【第2回SPERC実践的ロボットビジョン研究グループ講演会】 「闘い止まず。－画像研究40年－」奥水大和氏（中京大学教授）
3/31	情報システム工学コース 安倍正人教授 定年退職 工学系技術室 那須川徳博氏、太田康治氏 定年退職
4/1	岩井守生氏を電気電子通信コース助教として採用
4/7	岩手大学入学式 理工学部入学：システム創成工学科電気電子通信コース63名（うち地域創生特別プログラムものづくり系1名）、同知能・メディア情報コース60名（うち先端理工特別プログラム1名、地域創生特別プログラムものづくり系1名） 3年次編入学生：電気電子工学コース5名、情報システム工学コース4名 総合科学研究科理工学専攻修士課程入学：電気電子通信コース37名、知能情報コース12名 工学研究科博士後期課程入学：電気電子・情報システム工学専攻1名
5/10	役員選考委員会 太田原相談役・柏葉相談役・小野寺理事・吉田理事・武田理事 岩手大学理工学部
5/15	情報システム工学コース キャリアセミナー特別講演会、水子陽一氏（日本電気株式会社）
5/17	電気電子工学特別研修 「ベンチャー企業の社長としての話と最新のセンシング技術」上田智章氏（フォスメガ社長）
5/18	役員選考委員会 太田原相談役・柏葉相談役・小野寺理事・吉田理事・武田理事 柳橋副会長 岩手大学理工学部
5/21-25	岩手大学理工学部授業一般公開
5/24-25	電気電子工学コース ソフトボール大会
5/25	【SPERC 研究交流発表会】 「SPERCの新体制について」吉本則之氏、 ＜新研究グループ紹介＞「応用生命科学研究グループについて」尾崎拓氏、「生体脂質調節研究グループについて」芝陽子氏、「計算化学主導型分子設計研究グループについて」是永敏伸氏、「グリーン化学プロセス研究グループ紹介と報告」白井誠氏、 ＜重点経費報告＞「非破壊センシング研究グループ報告」小林宏一郎氏、「終わりの挨拶」荻原義裕氏、 ＜ポスター展示＞「農林水産ロボティクス研究グループ報告」三好扶氏
5/25	平成29年度岩手大学電気電子情報科会計監査 及川二千朗監事・大坊真洋監事・旗福会長・柏葉相談役・柳橋副会長 岩手大学理工学部

5/29	理事会事前打合せ 理事会協議提案事項について 旗福会長・柏葉相談役・立花副会長・久保田盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋副会長 岩手大学理工学部
5/31	電気電子工学特別研修 「日本のエネルギーシステムの課題」中原豊氏（三菱総合研究所）
6/1	開学記念日
6/2	平成30年度第1回理事会 総会提案事項協議 16人 盛岡市ホテルルイズ
6/6	情報システム工学専攻修士論文予備審査会《平成30年9月修了予定者》
6/16	平成30年度仙台支部総会 ハーネル仙台
6/21-22	平成31年度一般編入学者選抜試験 電気電子通信コース志願者9名, 知能・メディア情報コース志願者10名
6/23	平成30年度盛岡支部総会 ホテルルイズ
6/23	平成30年度岩手大学電気電子情報科会総会 31人 盛岡市ホテルルイズ 平成29年度事業報告・決算報告・会計監査報告・平成30年度事業計画・予算 役員の選出について 講演 草刈功労特別賞受賞 太田原功「岩手大学電気電子情報科会の歩みをふりかえる」
6/28	電気電子工学特別研修 「農業における電気利用」内野敏剛氏（九州大学）
6/30	東京支部大会
7/3	総合科学研究科理工学専攻推薦入学者選抜試験《平成30年4月入学》電気電子通信コース志願者3名, 知能情報コース志願者8名
7/5	電気電子工学特別研修 「-企業に求められる人財とは-」田中一彦氏（日本電機工業会技術部長）
7/17	電気電子工学特別研修 「半導体が切り拓く未来社会」泉谷渉氏（産業タイムズ社長）
8/9	オープンキャンパス
8/10	情報システム工学コース スポーツ大会
8/21	理事会事前打ち合わせ 会長・事務局3人・柏葉相談役 岩手大学理工学部
8/22-24	平成30年度大学院総合科学研究科理工学専攻（修士課程）入学者選抜試験《平成30年10月入学》電気電子通信コース志願者2名, 知能情報コース志願者なし 平成31年度大学院総合科学研究科理工学専攻（修士課程）入学者選抜試験《平成31年4月入学》電気電子通信コース志願者36名, 知能情報コース志願者7名 平成30年度大学院博士後期課程入学者選抜試験《平成30年10月入学》電気電子・情報システム工学専攻志願者なし 平成31年度大学院博士後期課程入学者選抜試験《平成31年4月入学》電気電子・情報システム専攻志願者1名
8/25	平成30年度第2回理事会 15人ホテルルイズ 竹の間
9/6-7	平成30年度電気関係学会東北支部連合大会開催（於 岩手大学上田キャンパス学生センター）
9/21	平成31年度理工学部AO入試I（第2次選考）地域創生特別プログラムものづくり系：電気電子通信コース受験者1名（合格者1名）, 知能・メディア情報コース受験者3名（合格者2名）
9/25	平成30年度岩手大学修了式・卒業式（農業教育資料館） 大学院工学研究科博士前期課程：電気電子・情報システム工学専攻1名修了
9/29	平成31年度理工学部AO入試II（第1次選考）先端理工特別プログラム：電気電子通信コース受験者1名（合格者1名）, 知能・メディア情報コース受験者なし
9/下-10/上	理工学専攻（修士課程）電気電子通信コース修士論文中間審査
10/1	岩手大学入学式（平成30年度10月入学者） 大学院総合科学研究科理工学専攻（修士課程）入学生：電気電子通信コース2名, 知能情報コースなし 大学院博士後期課程入学生：電気電子・情報システム工学専攻なし
10/11	「きたかみ」65号 第1回編集委員会 岩手大学工学部地域連携センター 久保田会長・柏葉相談役・立花副会長・齊藤健氏・長田理事・木村理事・柳橋副会長
10/19	工学部講演会出席 銀河ホール
10/19	電気電子工学特別研修 「デジタル時代の「信頼」と「創造」 佐々木繁氏（富士通研究所社長）
10/26	一祐会盛岡支部総会出席 一祐会会館
10/27	オープンキャンパス（大学祭）
11/2	盛岡支部見学会 盛岡セイコー
11/5-9	岩手大学理工学部授業一般公開
11/16	【SPERC 研究交流発表会】 ＜研究トピック＞「パルスパワー利用の農水食展開とその国際共創」高木浩一氏, ＜ミニシンポジウム＞「インタープレイ法による医薬品合成のための新規触媒開発」是永敏伸氏, 「二酸化炭素を原料とする化成品原料合成触媒開発」白井誠之氏, 「創薬における候補化合物最適化の重要性」尾崎拓氏, 「化学計算技術支援: インタープレイからAI化への検討」山中克久氏 ＜報告＞「放射光基礎講座参加報告」藤崎聡美氏
11/16	電気電子工学特別研修 「半導体（CMOS）が変えた世界」牧本次生氏（半導体産業界協会） 「半導体業界動向」市山壽雄氏（半導体産業界協会）
11/28	平成31年度岩手大学理工学部推薦入試I 電気電子通信コース志願者16名（合格者11名）, 知能・メディア情報コース志願者21名（合格者8名）
11/30	電気電子工学特別研修 「サステイナブルな社会とは」山崎慶太氏（竹中工務店技術研究所主任研究員）
12/上	大学院理工学専攻知能情報コース修士論文予備審査会《平成31年3月修了予定者》および中間発表会《平成31年9月修了予定者》（分野別に実施）
12/7	電気電子工学特別研修 「ものづくり技術を高めるソフトウェア開発」加藤喜昭氏（アイシン・コムクルーズ社長）
12/14	電気電子工学特別研修 「地域密着の8年間 ～えふえむ花巻の挑戦～」浅沼幸二氏（えふえむ花巻社長）, 落合昭彦氏（えふえむ花巻放送局長）
12/15	平成30年度第3回情報処理学会東北支部研究会開催
12/18	電気電子工学特別研修 「シリコン半導体と脳型計算」佐藤茂雄氏（東北大学電気通信研究所教授）
12/19	科会新年会打合せ、第2回「きたかみ」65号編集委員会 岩手大学工学部地域連携センター 久保田会長・柏葉相談役・宮手盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋副会長

岩手大学電気電子情報科会会則

第1章 総 則

第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。
第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、岩手大学工学部電気情報系工学科、並びに岩手大学理工学部システム創成工学科電気電子通信コース、知能・メディア情報コース(以下、電気情報系コースという)及び大学院工学研究科電気情報系工学専攻並びに岩手大学大学院総合科学研究科理工学専攻電気電子通信コース、知能情報コース(以下、岩手大学大学院電気情報系コースという)の傘下集った者の親睦を図り、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。

第3条 本会の本部事務所は盛岡市上田 岩手大学理工学部電気情報系コースに置く。
本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。

第4条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。

第2章 会 員

第5条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。

第6条 特別会員は岩手大学工学部電気情報系工学科、岩手大学理工学部電気情報系コースの現・旧教職員とする。

第7条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気情報系工学科卒業生、岩手大学理工学部電気情報系コース卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻修了生、岩手大学大学院電気情報系コース修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。

第8条 準会員は岩手大学工学部電気情報系工学科及び岩手大学理工学部電気情報系コースの在校生、並びに岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻学生、岩手大学大学院電気情報系コース学生のうち正会員でない者とする。

第3章 会 計

第9条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。
基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。

第10条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。
尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。

第11条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査を経て総会に於いて承認をうけ併せてこれを報告する。

第4章 会 議

第12条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。
理事会は、会長、副会長、理事及び相談役を

以て構成する。

第13条 総会は毎年1回会長がこれを招集して出席人員を以て成立する。

第14条 臨時総会は役員会に於いて必要と認められた時、会長がこれを招集する。

第15条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。

第5章 役 員

第16条 本会に次の役員を置く。

会 長 1名 正会員より選出する。
副会長 3名以内 正会員より選出する。
理 事 正会員より互選する。
尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。

会計監査 2名 正会員より選出する。
幹 事 正会員より理事会で推薦し会長が委嘱する。

顧 問 若干名 特別会員より会長がこれを委嘱する。

相談役 元会長は終身相談役として委嘱するものとする。

第17条 各役員の任期は2ケ年とし、再選できる。改選は総会に於いて行なう。
但し任期中欠員ができた場合は役員会に於いて選出し補充する。

第18条 会長は本会を代表しその事務を総括する。
副会長は会長を補佐する。
理事は本会の庶務を掌理する。
会計監査は会計を監査する。
事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。
幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。

第19条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。

第6章 会誌、講演会及び座談会

第20条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配付する。

第21条 講演会及び座談会は随時行う。

第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。

第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。

付 則

本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。

(昭和17年1月1日制定) (平成4年度総会一部改正)
(昭和25年度総会一部改正) (平成11年度総会一部改正)
(昭和37年度総会一部改正) (平成12年度総会一部改正)
(昭和40年度総会一部改正) (平成15年度総会一部改正)
(昭和41年度総会一部改正) (平成20年度総会一部改正)
(昭和46年度総会一部改正) (平成21年度総会一部改定)
(昭和50年度総会一部改正) (平成22年度総会一部改定)
(昭和51年度総会一部改正) (平成27年度総会一部改定)
(昭和56年度総会一部改正) (平成28年度総会一部改定)

編 集 後 記

雪かきの作業をせずに立春を迎えた盛岡です。雪が少ないと農家が困るのではないかと心配になります。ドカ雪が来て帳尻が合うことになるのでしょうか。

きたかみ 65 号をお届けします。一昨年お亡くなりになった阿部源祐相談役の追悼特集をと考えておりましたら、佐々木喜八郎相談役そして関享士郎先生のご逝去で、お三人の追悼集になりました。

8 月はじめ、盛岡さんさのパレードを終えて、あの太鼓の音が耳に残っているときに、娘さんから佐々木相談役の訃報が届きました。理事会出欠のお返事が来ないので心配していた矢先でした。最後までダンディーな相談役でした。

関先生の訃報は突然でした。ご病気のことを全く存じ上げませんでしたから絶句してしまいました。穏やかな笑顔が浮かんできます。

お三人のご冥福を心よりお祈りいたします。

今回の編集委員には阿部源祐相談役の原稿担当として仙台支部から齊藤健氏にも加わっていただきました。

30 年度総会では役員改選がありました。退任の方々には今までのご尽力に心より感謝申し上げます。役員名簿をご覧になって気が付かれましたでしょうか。女性の役員が 3 人になりました。各支部役員を含めて全体から見るとまだまだ微々たる数ですが、女性だけでなく若い役員を入れて新しい風をとという選考委員の方々の意向が感じられます。科会では老若男女の区別は全く感じられず、世間の理系女子（リケジョ）などという変な呼び方など存在しませんが、それでも何となく嬉しい気分です。新役員さんの新鮮な意見を期待しています。

31 年度の総会会場がまた変わります。昨年の会場のホテルルイズは駅に近くとても好意的な対応で評判が良かったのですが、この 2 月に閉館し、いずれビジネスホテルが建つとのこと。盛岡もどんどん様変わりしていきます。

31 年度総会はサンビル向かいの「エスポワールいわて」です。駅から少し遠くなりますが、懐かしい大通りをゆっくり歩いていらして下さい。

沢山の参加をお待ちしております。

このきたかみ 65 号に原稿を寄せていただいたみな様に感謝申し上げます。編集委員一同誠意を尽くしたつもりですが、至らぬ点があるかもしれません。どうぞご容赦下さい。

編集委員 久保田 賢 二 (会 長：昭和42年電気卒)
柏 葉 安兵衛 (相 談 役：昭和38年電気卒)
齊 藤 健 (仙 台 支 部：昭和38年電気卒)
宮 手 敏 雄 (盛岡支部長：昭和44年電気卒)
立 花 龍 一 (副 会 長：昭和61年情報卒)
長 田 洋 (事 務 局：昭和62年電気卒)
木 村 彰 男 (事 務 局：平成3年情報卒)
柳 橋 好 子 (副会長・事務局：昭和45年電子卒)

き た か み 第65号

発行日 平成 31 年 3 月 1 日
発行者 盛岡市上田 4 丁目 3 番 5 号
岩手大学工学部内
岩手大学電気電子情報科会
☎ 019-621-6381
印刷所 (株)阿部謄写堂
盛岡市本町通 2 丁目 8 番 37 号
☎ 019-623-2361

平成31年度岩手大学電気電子情報科会並びに 懇親会総会開催のご案内

平成31年度の電気電子情報科会総会は、下記のように開催することになりましたので御案内申し上げます。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。

総会への出欠については、「きたかみ」綴込みのハガキに、住所や連絡先等をご記入いただき、一ヶ月前の平成31年5月15日までにご投函いただきたくお願い申し上げます。

記

日 時 平成31年6月15日(土)

受 付	午後1時30分～
盛岡支部総会	午後2時00分～2時30分
総 会	午後2時30分～3時30分
講演会等	午後3時30分～4時30分
集合写真	午後4時30分～4時45分
懇 親 会	午後5時00分～7時00分

場 所 エスポワールいわて
〒020-0021 盛岡市中央通1丁目1-38
TEL 019-623-6251

議 題 1. 平成30年度事業報告、決算報告承認
2. 平成31年度事業計画案、予算案審議
3. その他

講 演 会 演題「建築防災の現状と気象情報の利活用(仮)」
講師：齊藤久昭氏(盛岡ニッタン株式会社代表取締役、気象予報士) 昭和54年電子卒

懇親会会費 5,000円(懇親会席上で、昨年秋・今年春に叙勲された方を御紹介し、祝意を表します。
叙勲された方を御存知の方はお知らせ下さい。)

連 絡 先 総会出欠・叙勲された方の紹介等、会誌「きたかみ」に綴込みのハガキを使用するか、
下記事務局宛電話、FAX又はE-mail等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会	E-mail: iwate.ddj.kakai@gmail.com
岩手大学電気電子情報科会事務局(岩手大学理工学部内)	
電気電子通信コース担当	長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381
知能・メディア情報コース担当	木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488
庶務会計・学外担当	柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253